

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-118	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Postoperative risks associated with alcohol screening depend on documented drinking at the time of surgery. 手術時の飲酒情報及び事前の飲酒スクリーニングと術後リスクとの関連		
執筆者		
Rubinsky AD, Bishop MJ, Maynard C, et al.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2013 Oct 1;132(3):521-7. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2013.03.022.		
キーワード		PMID
飲酒、AUDIT-C、術後合併症、術後のヘルスケア利用		23683792
要 旨		
<p>目的： 手術1年前のAUDIT-Cスコアおよび手術直前に診療録に記載された“1日2杯以上飲酒”という情報は、いずれも術後の合併症頻度や、ヘルスケアおよびその長さに関連する。本研究では飲酒の診療録情報がAUDIT-Cスコアの術後リスクに付加的に関与するか否か明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法： 米国 Veterans Affairs において緊急でなく、かつ心臓関連でない手術を受けた8,811名を対象とした。術後30日間における合併症、再手術の頻度、入院日数、集中治療室の滞在日数を調査し、線形およびロジスティック回帰分析を実施した。診療録の1日2杯以上飲酒の記載（あり、なしの2群）およびAUDIT-Cスコア(0、1-4、5-8、9-12の4群)による8群を定義した。基準群はAUDIT-Cスコア1-4かつ飲酒の記載なしの群とした。</p> <p>結果： 1日2杯以上飲酒の記載ありの群において、AUDIT-Cスコア5点以上の群は有意に術後合併症リスクが高値であった。同スコア9点以上の群は有意に入院期間、および救急治療室滞在期間が高値であった。飲酒の記載なしの群においては有意差がみられなかった。</p> <p>結論： 手術直前に得られた飲酒情報が、AUDIT-Cスコアによる術後リスク評価に付加的に関与することが示唆された。しかしながら、1日2杯以上飲酒の記載ありの群においては、リスク毎のAUDIT-Cスコアとの関連に大きなばらつきがみられた。</p>		